

～ Serving the Community and Supporting the YMCA since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：*Heal the world: Rollback Malaria*

2025
3月



2024-25 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

次期会長・部役員研修会
@ YMCA 東山荘

今、世界地図を塗りかえたい米翁一人に世界中が振り回されている。他方、地球は我関せずとマイペースで環境破壊に答えている。IT・AIの進歩で解決策以外は色々見えてくる。それがやたら痛い (ITAI)。今月のブリテンは久しぶりに水無瀬メンが一文を寄稿。世界各地のYMCAの女性リーダーたちがジェンダー問題と向き合っていることを翻訳紹介。



[写真メモ] 3月8・9日、次期会長/部役員のための研修を受け、老若男女メンが御殿場 YMCA 東山荘に集結。北海道から静岡県まで初顔も多いが、各クラブの悩みはほぼ同じ。すぐ意気投合。丸一日 (実質 15 時間) 議論・食事・宴会をするうちに一人ひとり奉仕の心と知恵と、各地に仲間がいる安心感に元気が湧いた。御殿場を覆った雪もワイズの熱気に敵わず。当クラブの浅羽次期会長 (5 期目) はどこ? レンズの裏に隠れてる。



今月の聖句

なくなってしまう食べ物のためでなく、いつまでもなくならない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。 (ヨハネの福音書 6: 27)

4月「タリフ？」例会

日時：4月21日 (月) 10:00 ~ 12:00
会場：市民活動サポセン (パルコ 9 階)
プログラム：ジェンダー (11)

4月 夜談会

日時：4月14日 (月) 午後 6 時 ~ 8 時
会場：サイゼリア (浦和駅東口)

▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場 (覗いてください)

◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆

◆ 納得！ロールバック・マラリア献金

水無瀬 隆造

今までワイズの「ロールバック・マラリア」の献金には余り感心を持っていなかった。ところが1月13日のテレビ番組「なぜそこに日本人」で、JICAの青年海外協力隊からの派遣によって西アフリカの国、ベナン共和国の寒村に駐在している日本人看護師を紹介していた。ベナンの人口は132万人で埼玉県の規模。エケ陽子さんの村人に尽くす献身的な姿に心が打たれた。

彼女は兵庫県明石市の出身で、オーストラリアの名門フリンダース大学看護学部を卒業し、帰国後は鹿児島県の喜界島、徳之島等の離島医療に関心を持って勤めていた。しかし実母がガンで死別。その後自分の子どもの死亡と続き、看護師とは何かと思ひ悩み、医療の現場を去ることを考えた。そんな折テレビでアフリカの貧しい医療実態の放映を見て「アフリカのために」尽くす決意をし、JICAの派遣事業に参加し、ベナン共和国のトタ村に赴任した。2023年3月より在住（人口4千人）。村の様子を知るために聞き取り調査をした。その折現地の村人で応援してくれる男性が1年間付き添ってくれた。誠実で好ましい人と見て結婚。夫婦で調査した結果、マラリアによる死亡なのに蚊帳を使っていない。月収が2万円では蚊帳は買えないと判明。そこで夫と共に村人たちの生活を豊かにするために NGO:Salutota を設立し、石鹸作りと、環境を衛生的にする講習を実施。しかし貧しさは急には変わらず。そこでホームページを立ち上げ、支援会員を日本人向けに募集を始めた。蚊帳は楽天価格で5千～3万円で購入出来る。

ならばワイズのロールバック・マラリア献金が大きい意義あると認識を新たにした。又、エケさんの NGO への支援も意義があると思った。◆



YMCA World News

* 埼玉クラブの進めるジェンダー学習に直接関係しているので取り上げました。

◆YMCA 地球会議:「指導者のジェンダー平等」

3月7日、国際女性デー前日に世界各地のYMCA(以下“Y”)から400名超の指導者たちがオンラインと同時アンケートを使って男女平等に向けて経験談、課題、提案を共有。そこには同じ指導的立場でも男性は「リーダー」女性は「女性リーダー」と言われことへの疑問が共有されていた。

先ずケベック Y のラケルがSDGs目標中、ジェンダー対応が遅れており、2030年までに目標達成は難しいと説明。各界とも女性リーダーが少数、経済格差、ジェンダー上の暴力など課題が依然多いことや、毎年2億人以上の女性がパートナーから身体的・性的暴力を受けている、と。



ついで各Yで指導する立場の4人が発題。欧州Y同盟のエマは組織初の女性会長としてガラスの天井を突破したこと。「私は自らに正直であり続け、自分の価値観や信念に従って指導し生き延びられた」。フィリピンYのチエロは、家族の長女として個人の責任と職業上の責任のバランス取りの難しさを。「公私の線引きは利己的ではありません」。また、モンテビデオYのアナは、女性が指導力を発揮する際「強く、しかも強すぎず」が必要。エチオピアYのエチオピアはどんな課題も解決策はある、ひとつがダメなら別の解決策を探せ、とそれぞれ発言し、支援体制についても次のように言及した。

- コミュニティ・サポート・システムが必要。
- 自身の信仰と家族や夫の支えがあった。
- 指導者たちがチームで行動すると変化が分かる。
- 「優しさ」は指導者の大切な資質。

最後に具体的なステップが紹介された。

- 自分の影響力を活かして他の人の扉を開く。
- 組織内のジェンダーバイアスに異議を唱える。
- 測りやすいジェンダー指標を組織内に設ける。
- 若い女性の後押しする仕組みを作る。
- ジェンダー問題への参画を男性同僚に促す。

以上是世界YMCA同盟3月通信からの一文をグーグル翻訳/抄訳/意識したものです。(文責 浅羽)

活動・会議メモ

◆ 3月「夜談会」

今月10日の晩、浦和駅東口「サイゼリア」にて集会。10人が参加し、2卓に5人ずつ分かれて話し合った。多少窮屈だったがおしゃべりの盛り上がりには特に影響なし。

都内からゲストとして産婦人科医の西野るり子さんを招いて、20年ほど前に「国境なき医師団」の産婦人科医師として戦乱のソマリアで働いた数ヶ月間のことを語ってもらった。現地（ジョホール）



の女性看護師が字も数が読めないため「患者に朝昼晩3日間分の薬を用意」と指示するにも、テーブルに薬を9つに分けて並べてみせて説明するなど、初等教育のない現場の苦労話が印象的だった。次の機会にはきちんと講演として招きたい。

*「夜談会」はどうしても面白いテーマも導入で終わりがちだが、それでも出席者が学びと出会いを感じられるようこれからも工夫したい。（浅羽 記）◆

出席：衣笠・浅羽恵・高岡・上松・浅香・大輪・于・西野・宮原・浅羽（敬称略）

◆ 3月「ミモザ」例会

今月の例会はクラブ運営について話し合った。

まず浅羽会長から YMCA 東山荘での研修内容について報告があった。東日本区の喫緊の課題は会員数の減少に歯止めがかからず、自ずと奉仕活動のための資金も減少していること。次期区役員会はいくつか方策を検討しているが、各クラブの分担金はできるだけ現状を維持したい。質疑応答はなかったが、山下次期理事の苦労がよく伝わった。部単位のグループ協議は「部」という組織の見直し（主査の役割、部内交流、部の再編、部費など）一部からは会員数の減少は日本の人口減少と連動しており増やすのは無理という割り切った意見もあった。

研修会報告の中で会長からこの会で話し合ってもらいたいと持ち出されたのが、区役員会の「ワイズ・カレンダー販売」作戦。目的は区の財源を増やすこと。例会では総論賛成各論反対。同世代の知人は既に好みのカレンダーが決まっている、毎年いくつも贈られてくる、予定

を書き込むスペースが小さい、売れ残りの廃棄問題などの指摘あり。ワイズのイメージダウンの可能性を考えられる。で、当クラブとしての参加は難しい、ということ



に落ち着いた。

例会ではそのほかに、夜談会やジェンダー学習は当面続けることにした。50周年企画として改めてアルバムは上松メン、「50年史」については水無瀬メンに資料協力を仰ぐことにした。（浅羽記）◆

ゲスト：于 メン：衣笠・伊藤・高岡・上松・水無瀬（ズーム）・浅羽（敬称略）



YMCA の小まどから

* 川越 YMCA から見沼田んぼでの活動について寄稿していただきました。



3月22日午前中、川越 YMCA のグループ「クローバーの中高生」とクローバー卒業生「アップ」のメンバー4人と引率スタッフ2人がさいたま市内の見沼田んぼまでやってきました。先月は小学生のグループで、川越 Y からミニバスでしたが、今回は北浦和駅から路線バスで、終点の市立病院から徒歩15分、芝川を超えて里山に到着したのが9時。ボランティアの皆さんと挨拶し、作業については「水のフォルム」代表の藤原さんから説明を受けました。

この日の作業は用水路とその周辺のゴミ拾い。子どもたちは皆さんと一緒に里山を下り、田んぼ沿いを歩きました。トングでゴミを拾う人、ゴミを分別



仲間からの便り



して入れるプラスチック袋を持つ人。歩きながら話し、立ち止まってはゴミを拾う。田んぼと畑を抜けて、芝川の土手に上がると、そこもあちこちにゴミのペットボトルやパック。メンバーもゴミの多いのに驚いていました。晴天で良かったが、陽射しが段々と強くなるのを感じました。（この日の最高気温は 23 度！）私たちは早めに引き上げましたが、短時間でも日ごろ味わえない体験が出来ました。生活に欠かせない米や野菜を作る現場が身近にない



だけに、感じ学ぶことが多かったです。参加したメンバーは帰りのバスで「疲れたけど、また来たいな」「自然に囲まれてとても気持ちいいな」と言ってくれました。私たちスタッフも嬉しかったです。

昨年 11 月、YMCA の子どもたちに是非見沼田んぼの農作業に触れてもらおうという提案がありました。今年に入って打ち合わせを進め、先月今月と市民田んぼ活動に少しですが参加出来ました。これからも田んぼに出て、四季折々の田んぼの変化や作業を子どもたちと実地で学んで行きたいです。

（川越 YMCA 職員 長尾愛美・坂室由美子 記）

* 2 枚の写真はゴミ拾い参加者一同。YMCA の子供達の帰った後。

埼玉 YMCA 職員の坂室由美子さん退職の挨拶

私事ではありますが、この 3 月末にて退職することとなりました。ボランティア期間を含め約 7 年半でしたが、Y's の皆さまに本当に色々サポートを頂きありがとうございました。皆さまとお会いできなくなると思うと寂しい気持ちもありますが、これまでご一緒させていただいた思い出を胸に今後も頑張っていきたいと思っております。最後ではありますが、貴会の今後のますますのご発展をお祈りしております。

* 坂室さん、コロナ禍や浦和センター閉鎖など大変苦労されたと思います。本当にお疲れ様。きっと再会する機会はあると思います。それまでどうぞお元気で。（ワイズ一同）

◆ 3 月の俳句 堀和光二郎メン（俳号 愚道）

切られても甦りし桃の花

我が家のむかいは桃の木の手手になっております。地主さんが数年前に何を思ったか全部切ってしまったのです。しかし、今年あの桃が甦ったのです。



春の雪何も語らずしんと

春を聴いてからの雪は趣がありますね。観ているだけで十分です。

春となり歩き出せずに迷い猫

今年こそと思いつつ、未だに飛躍できない私があります。迷い猫と開き直っております。

◆ 浅羽俊一郎メン



埼玉クラブが応援する地域活動「き咲きてらす」が第 2 回「のん歩」を 3 月 23 日実施。今回は見沼田んぼと芝川土手を個人、親子連れ、夫婦が青空の下、1 時間半歩きながら景色と対話と繋がりを楽しんだ。当クラブからは上松メンが参加。

* 「のん歩 (NOMPO)」は知らない市民同士がのんびり散歩を体験するイベント。初回は別所沼公園を回った。

統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
夜談会 (03/10)	10	4	6
月例会 (03/17)	7	6	1



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会 (Y's Men International) は世界的な社会教育団体 YMCA を支える社会人クラブの国際的な

繋がりを。若者と地域への奉仕と、国内外の交流を進めています。肩書き・性別・政治・宗教・年齢差を問わず、皆が対等。ボランティア活動はしたいけれど、最初の一步が踏み出せないという方、ワイズからスタートしませんか。随時募集しています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動してきて、再来年 50 周年です。

まずは月例会をのぞいてワイズの雰囲気を知ってください。年会費 4 万円ですが、正式入会せずにゲストで参加し皆と対等に活動できます。

* 詳細は埼玉クラブ会長 浅羽まで。(090-7426-5553)